スイッチ OTC 医薬品の候補となる成分についての要望 に対する見解

1. 要望内容に関連する事項

組織名	公益社団法人	日本皮膚科学会
要望番号	H28-10	
要望内容	成分名 (一般名)	ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル
	効能・効果	湿疹

2. スイッチ OTC 化の妥当性に関連する事項

1. OTC とすることの可否について OTC とすることは否と考えます。

[上記と判断した根拠]

当該医薬品はベリーストロング(II 群)のステロイド外用薬に相当します。II 群のステロイドは皮膚萎縮、毛細血管拡張、皮膚感染症などの局所的副作用が出やすく、慎重に使うべき薬剤であり、OTC 化には適さないと考えられるためです。

スイッチ OTC 化の妥 当性

2. OTC とする際の留意事項について

〔上記と判断した根拠〕

3. その他

今までOTC 化されたステロイド外用薬はストロング (III 群) 以下のランクのものだけであり、ベリーストロング (II 群) 以上のランクの薬剤はOTC 化されたことがありません。この姿勢は今後も堅持するべきと考えます。

備考

スイッチOTC医薬品の候補となる成分についての要望 に対する見解

1. 要望内容に関連する事項

組織名	公益社団法人	日本小児科学会
要望番号	H28-10	
要望内容	成分名 (一般名)	ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル
	効能・効果	湿疹

2. スイッチ OTC 化の妥当性に関連する事項

1. OTC とすることの可否について 否

〔上記と判断した根拠〕

小児の診療では使用頻度が高く有用性は高い。しかし、very strong にランクされ、乳児への使用や感染症に対する注意が必要である。また 眼周囲等への塗布は避けるなど塗布する部位、用法・用量、投与期間に ついての説明は十分行わねばならない。稀ではあるが一部の患者で低身 長や緑内障が発生することがあり、安全性が高いとは言えない。重ねて、 患者にはスキンケアの指導、適切な抗原除去やライフスタイルへの助言 も必要であるので、OTC とするには問題があると判断される。

スイッチ OTC 化の 妥当性

2. OTC とする際の留意事項について

患者には副作用、用法・用量、投与期間について周知することが必須となる。

[上記と判断した根拠]

劇薬に指定されている医薬品であり、使用するにあたっては十分な理解と慎重さが求められる。

3. その他

備考

スイッチOTC医薬品の候補となる成分についての要望 に対する見解

1. 要望内容に関連する事項

組織名	日本臨床皮膚科医会		
要望番号	H28-10		
要望内容	成分名 (一般名)	ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	
	効能・効果	湿疹	

2. スイッチ OTC 化の妥当性に関連する事項

1. OTC とすることの可否について OTC 化には強く反対する。

〔上記と判断した根拠〕

ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステルはベリーストロングクラス (II群) のステロイド剤であり、外用を長期連用することにより皮膚萎縮、毛細血管拡張、皮膚の易感染性などの副作用が出現しやすいため、特に厳重な注意を払って慎重に使うべき薬剤である。

1990 年代前半に起こった「ステロイドバッシング」。その嚆矢となったのが、TV 番組の特集で、番組の最後に司会者が言った「ステロイドは大変な薬です。最後の最後まで使わないでください」、「ステロイドは悪魔の薬です」という言葉である。その特集報道は、ストロングクラス(III群)のステロイド剤を薬局から購入または別件で医師から処方されたものを入手し、顔面に長期連用したために発症した「重度顔面ステロイド皮膚炎」に関するものだった。使用方法・入手方法に問題があったにもかかわらず、ステロイド剤が諸悪の根源であるかのような報道をきっかけに、医療機関では「ステロイドは使わないで下さい」という患者が激増した。

スイッチ OTC 化の 妥当性

> ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステルが OTC 化されれば、 さらに激しい副作用を訴える患者が増えることは、火を見るより明らか であり、それによる「ステロイドバッシング」の再来は、我々医者が困 惑するのは勿論、最大の被害者は湿疹・皮膚炎等の皮膚病を有する患者 であることを忘れてはならない。

> 日本では、既にストロングクラス(Ⅲ群)のステロイド剤(フルコート、ベトネベート)が OTC 化され販売されているだけでなく、マイルドクラス(Ⅳ群)のステロイド剤は多くの商品名で販売されている。ストロンゲストクラス(Ⅰ群)およびベリーストロングクラス(Ⅱ群)のステロイド剤に関しては、一般消費者が安易に使用すべきではなく、医師

	の的確な診断のもと適切に使用すべきものであり、OTC 化には断じて反対である。
	2.OTC とする際の留意事項について
	〔上記と判断した根拠〕
	3. その他
備考	